



Title	Stress Hormone Levels in Saliva after Shogi Competition are modified by Stress Coping
Author(s)	大平, 雅子
Citation	大阪大学, 2011, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/58211">https://hdl.handle.net/11094/58211</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> 大阪大学の博士論文について <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> をご参照ください。

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	おお  ひら  まき  こ 大 平 雅 子
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学位記番号	第 2 4 3 6 4 号
学位授与年月日	平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 医学系研究科予防環境医学専攻
学位論文名	Stress Hormone Levels in Saliva after Shogi Competition are modified by Stress Coping (将棋対局時におけるストレスホルモン変化に対する性格情動特性修飾作用)
論文審査委員	(主査) 教 授 磯 博康 (副査) 教 授 武田 雅俊 教 授 守山 敏樹

## 論 文 内 容 の 要 旨

### 〔 目 的 〕

社会的競争モデルとして将棋対局前後の唾液中ストレスホルモン変化に対する対局者の性格情動特性（ストレス対処行動型）の修飾作用を定量的に明らかにする。

### 〔 方法ならびに成績 〕

将棋部員 90 名を対象に対局当日朝、直前、終了直後、終了 30 分後、翌日朝に唾液中ストレスホルモン濃度（コルチゾール、テストステロン）を測定し、ストレス対処行動型（ラザルス式ストレスコーピングインベントリーで評価）に比較分析した。ストレス対処行動型によりグループ化して解析を行ったところ、翌日朝に Em（情動的ストラテジー）群では Co（認知的ストラテジー）群よりもコルチゾール濃度が有意に高いという結果が認められたが、テストステロン濃度では両群間で差は認められなかった。これは、Em 群では対局日に生じた勝負ストレスが翌日朝まで継続している為であるかもしれない。また、コルチゾール濃度が翌日朝に Em 群でより高い傾向は勝敗結果、勝負内容（緊迫度）と無関係に認められた。

### 〔 総 括 〕

本研究結果は勝負ストレス反応の変化にストレス対処行動型が重要な役割を演ずることを示唆しており、競争的な社会的ストレスのマネジメントで新たな理論と方策を開発するための基礎資料となり得る。

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

社会的競争モデルとして将棋対局前後の唾液中ストレスホルモン変化に対する対局者の性格情動特性（ストレス対処行動型）の修飾作用を定量的に明らかにする目的で行われた。将棋部員90名を対象に対局当日朝、直前、終了直後、終了30分後、翌日朝に唾液中ストレスホルモン濃度（コルチゾール、テストステロン）を測定し、ストレス対処行動型（ラザルス式ストレスコーピングインベントリーで評価）に比較分析した。ストレス対処行動型によりグループ化して解析を行ったところ、翌日朝にEm（情動的トラテジー）群ではCo（認知的ストラテジー）群よりもコルチゾール濃度が有意に高いと

いう結果が認められたが、テストステロン濃度では両群間で差は認められなかった。これは、Em群では対局日に生じた勝負ストレスが翌日朝まで継続している為である可能性がある。また、コルチゾール濃度が翌日朝にEm群でより高い傾向は勝敗結果、勝負内容（緊迫度）と無関係に認められた。

本研究結果は勝負ストレス反応の変化にストレス対処行動型が重要な役割を演ずることを示唆しており、競争的な社会的ストレスのマネジメントで新たな理論と方策を開発するための基礎資料となり得るため、学位の授与に値すると考えられる。